



高度な知識と 技術を身に付け、多くの 人々を救う医療人へ。

Faculty of Medicine

医学部

- ▶ 医学科
- ▶ 看護学科

■ 佐賀大学医学部の使命

医および看護の実践とその科学的創造形成の過程を通じて医学および看護学の知識技術ならびに医師または看護職者たるにふさわしい態度を修得し、かつ、これらを生涯にわたって創造発展させることのできる人材を養成することを目的とし、もって医学および看護学の水準および地域医療の向上に寄与する。

■ 卒業時学修成果

- プロフェッショナリズム
- 医学的知識
- 安全で最適な医療の実践
- コミュニケーションと協働
- 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
- 科学的な探究心



日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価の結果、適合が認定されています。

看護学科

石本 尚子 福岡県 京都高等学校出身
岸田 和之 佐賀県 唐津西高等学校出身
立尾 風香 熊本県 天草高等学校出身

〈学部の特長〉

医学部は、四半世紀におよんだ旧佐賀医科大学の建学の精神と伝統を受け継ぎ、「医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応え得るよい医療人を育成し、もって医学・看護学の発展ならびに地域包括医療の向上に寄与する」ことを基本理念としています。そして、時代にマッチした斬新な教育方法を取り入れ、豊かな感性と高度な専門知識と専門技術を兼ね備えたよい医療職者を育成することを目標として教育を行っています。また、医療に関する単なる知識や技術を学ぶのみでなく、医療職者に求められる広い視野からの問題解決能力と、病める人が心の奥に持つ悩みや苦しみを共感できる心を育てます。

■ 教育目標

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうるよい医療人を育成し、もって医学・看護学の発展ならびに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。

アドミッション
ポリシーはこちら



■ 在学生インタビュー



知識とともに人としての幅を広げ 「この医師に任せたい」と思える存在になりたい。

小学生の時に会った小児科の先生に影響を受け、「病気の人が自分らしく生活できるようにサポートしたい」と思い、医師を目指すようになりました。佐賀大学医学部の良さは、早期から医療現場に出る機会が多いことで、この経験が良い医師に必要な能力や考え方などについて主体的に考えるきっかけとなりました。現在は佐賀大学医学部附属病院や関連病院で臨床実習をし、医療チームの一員として担当患者さんの診察やカルテ作成などに取り組んでいます。様々な経験を重ね、病気の治療だけでなく、患者さんの人生そのものにも目を向けることができる、温かく、優しく、頼れる医師になりたいと思っています。

医学科
松浦 佐紀 佐賀県 武雄高等学校出身

インタビュー動画も
ご覧いただけます



サガつくポイント

医学部

充実した環境・カリキュラムをいかし 時代が求める医療人を育成

01 技術と人間性を兼ね備えた 全人的な医療人を目指して

医学部の特長は、一貫した実践的教育プログラムです。医学科では早期から臨床現場に触れる機会が多く、医師としての心構え・倫理観を早期に養うカリキュラムになっています。3年次からPBL（問題基盤型学修）やCBL（症例基盤型学修）を導入し、学生が主体的に問題解決能力を養う教育方法を採用しています。看護学科でも学年に合わせた実習やグループワークを取り入れ、専門技術だけでなく社会性や人を統合的に捉える思考力を身につけた人材育成に力を入れています。さらに医学科・看護学科ともに、多くの実習を本学附属病院や地域の診療所で行い、専門的かつ地域に根差した医療人の育成に取り組んでいます。

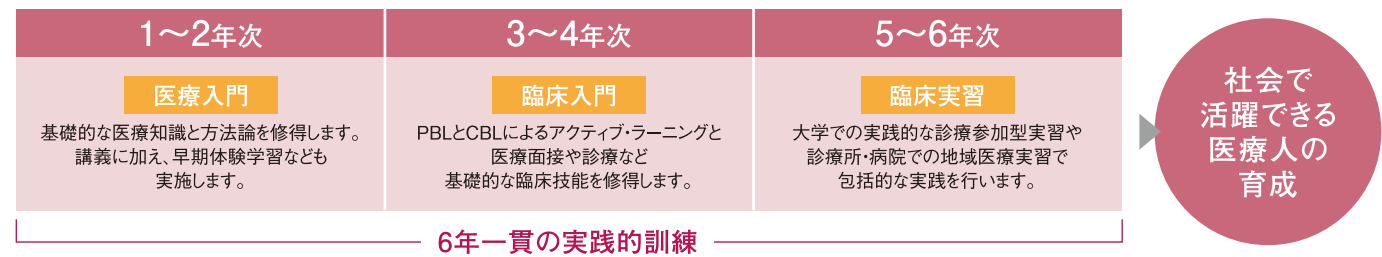


02 現場での実習を多く取り入れ 社会の期待に応えうる実践力を養う

医学科では臨床実習、看護学科では臨地実習と、実際の医療現場での実習を重点的に行っています。現場を体感し、医師・看護師からの指導を受けることで、即戦力として活躍できるスキルを身につけます。

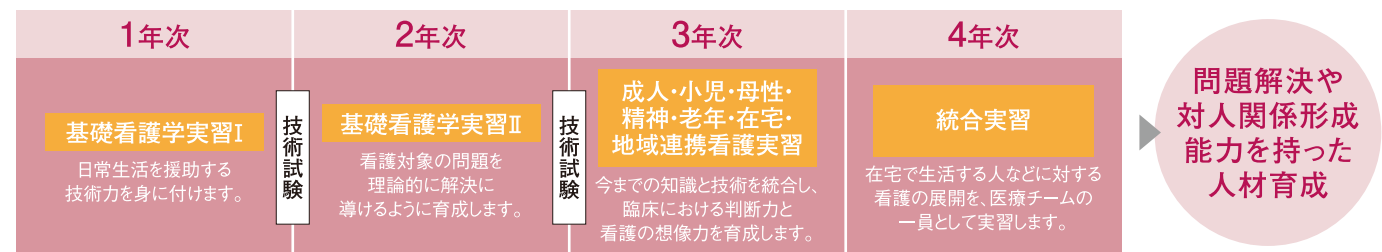
〔医学科の実習教育プログラム〕

医学科では1年次から医療入門や早期体験学習を導入して、早くから医師としての心構えをしっかりと身に付けるためのカリキュラムを組んでいます。臨床実習では先輩の教員、医員および看護師等と共にチームの一員として患者に接し、PBL等で培った「課題発見・問題解決」能力を有効に応用する経験を積みみます。



〔看護学科の実習教育プログラム〕

1年次から4年次まで、病棟で実習を行う臨地実習を取り入れ、基礎から在宅看護までを実際に体験しながら学びます。地域における保健・医療・福祉の関わりや、現在起きている課題に関心・理解を持つことで、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考で課題を解決する力を身に付けます。



看護学科における資格取得について

医学部看護学科では、「保健師国家試験受験資格」「助産師国家試験受験資格」を取得することが可能です。2年生の2月頃に筆記試験・面接試験等によりコース履修者を決定します。

【各コース定員】 ●公衆衛生看護学コース…30人程度 ●助産学コース…5人程度

※「公衆衛生看護学コース」「助産学コース」について、コース履修できるのはどちらか一方となります。 ※各コース定員については、入学後変動する場合があります。

03 基礎力と自ら考える力を養うための 独自カリキュラム

基礎的な知識や技術を身につけるとともに、自ら考える力や行動する力をつけるために独自のカリキュラムを実施しています。グループワークやチューター（指導教員）制度を取り入れ、きめ細やかなサポートを行います。



医学科

PBL (Problem-based Learning) 問題基盤型学修

学生自らが課題を見つけ、少人数のグループ討論や自己学修を通して学びを深め、さらにグループ討論を経て解決策を探ります。学生自身の考える力、問題を解決に導く力を養うための学修方法です。

CBL (Case-based Learning) 症例基盤型学修

PBLより応用課題のみに特化した方法で、症例の事前配布やテーマの提示を受けて事前に自己学習を行うのが前提です。グループ討論や全体討論を行い、チューター（指導教員）が指導しながら解決へと導きます。

基礎医学

医学の基礎となるもので、臨床医学を学ぶ上でとても重要となる分野です。生理学、生化学、免疫学など多くの科目を、講義と実習を通してしっかりと学び、臨床実習へとつなげていきます。

看護学科

少人数のグループワーク

少人数でのグループワークや演習で、自らが考える力、探求する力を養います。コミュニケーションをとっていく過程で、自分の考えを明確に表現する姿勢や、他者の考えを理解する力を身につけます。

対面式の個別指導・フォローアップ体制

課題学習においては、対面式個別指導を実施します。講義や課題、試験などを通して個人の学習到達度を正確に把握し、個人の能力に応じたきめ細やかなフォローを行っていきます。

看護技術修得の環境を整備

1年次は早期体験学習、2年次は基礎看護学実習、3年次は臨地実習、4年次は統合実習と、学年ごとに実習を積み重ねます。様々な医療現場を経験することで、看護の心構えと確かな技術を修得します。



佐賀大学医学部附属病院

医学部に隣接しているため医療現場を肌で感じ、質の高い臨床実習・臨地実習を行うことが可能です。診療科目が多く、それぞれの分野で専門性を高めることもできます。高度救命救急センターにはドクターヘリも導入され、地域医療に大きく貢献しています。

学生の成長を支え、肝がんのない未来を目指す。 教育と医療の力で佐賀を守りたい。

私は、2023年に佐賀大学医学部に設置された臨床実習コーディネーターチームの一員として医学部5・6年生の実習を支援し、診療科と学生の橋渡しをしています。同時に、肝臓内科医として肝がん死亡率が高い佐賀県において、肝がん撲滅に向けた啓発や研究にも取り組んでいます。大学時代に先生方から熱心な指導を受けた経験が、今の仕事をしていく上で大きな原動力となっています。特に臨床実習で肝臓内科の先生と出会ったことが専門を志すきっかけとなったことから、学生にも将来の道を見つける機会を提供したいと考えています。また現在は、臨床実習コーディネーターの活動をSNSでも発信しています。メディアやデザインを活用した新しいアプローチで医学的な情報を発信し、学生の成長や肝がん対策に貢献できればと考えています。



佐賀大学医学部
地域医療科学教育研究センター勤務
佐賀大学医学部附属病院
肝疾患センター（兼任）
井上 香さん 医学部医学科2013年3月卒業
〔業務内容〕
医学生がすべての症候や医行為を経験できるように管理し、一貫したトレーニングを支援。



詳細情報はこちら

専門知識と技術を身につけ
医療人として、人として成長し
大好きな佐賀県の医療に貢献したい



幼い頃より人の命を救う事ができる医者に憧れ、医学科を目指しました。佐賀大学を選んだのは、母の実家があり馴染み深い土地だったから、早期より臨床を意識したプログラムが実施されているから、興味を持つ診療科に特に優れた先生方がいらっしゃると思ったからです。現在は、病院で様々な診療科を回りながら臨床実習をしています。これまでの学びで積み重ねてきた基礎医学・臨床医学の知識を実際の現場で体験し、日々刺激を受けながら学習に取り組んでいます。またサークル活動では、弓道部、勉部、学生自治会に所属しています。多くの人と関わり、部を取りまとめる立場をたくさん経験したことで、医療者に必要なコミュニケーション能力も身につきました。卒業後は、佐賀県で医療に従事したいと考えています。

医学科
目黒 俊希 東京都 城北高等学校出身

学びの特色

1

よい人間関係を持つ人になる

高い倫理観と豊かな人間性を育み、他者と共感してよい人間関係を作ることができる。

学びの特色

2

自己学習できる人になる

医学の知識・技術を修得するとともに、自己学習の習慣を身に付ける。

学びの特色

3

問題を解決に導く人になる

つねに科学的論理的に思考し、問題の本質に迫った解決に努める。

学びの特色

4

医療を理解し実践する人になる

国内外に対し幅広い視野を持ち、かつ実践する。地域社会における医療の意義を理解し、かつ実践する。

主な進路

〈主な就職先〉

●佐賀大学医学部附属病院 ●佐賀県医療センター好生館 ●嬉野医療センター ●佐賀病院 ●唐津赤十字病院 ●織田病院 ●九州大学病院 ●九州医療センター ●久留米大学病院 ●福岡大学病院 ●長崎大学病院 ●長崎医療センター ●熊本市市民病院 ●大分県立病院 ●呉共済病院 ●岡山市立総合医療センター岡山市市民病院 ●姫路赤十字病院 ●奈良県総合医療センター ●横浜市立みなと赤十字病院 ●東京大学医学部附属病院 ●日本医科大学付属病院 ●千葉大学医学部附属病院 ●獨協医科大学埼玉医療センター ●筑波大学医学部附属病院 等

カリキュラム一覧

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次											
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
大学入門科目Ⅰ (医療入門Ⅰ)		医療入門Ⅱ		Unit13(臨床入門)				臨床実習 地域医療実習 関連教育 病院実習		臨床実習 地域医療実習 関連教育 病院実習											
基本教養科目 インターフェース科目		免疫学 組織学 神経解剖学 薬理学 生化学 微生物学 動物性 機能生理学 植物性 生理学		救急・麻酔・ 総合診療 (1) 循環器 呼吸器 消化器 代謝・内分泌・ 腎・泌尿器		血液・腫瘍・ 感染症 皮膚・膠原 運動・感覚器 精神・脳・神経 精神・脳・神経 小児・女性 救急・麻酔・ 総合診療 (2) 社会医学・ 医療社会法制 統合医療						◆共用試験 (CBT、OSCE)									
外国語科目																					
情報リテラシー 科目																					
生命倫理学	医療統計学																				
行動科学原論										◆臨床実習後 OSCE	総括講義										
物理学																					
生物学	分子生物学Ⅱ 人体発生学 肉眼解剖学概説											臨床実習									
化学																					
分子生物学Ⅰ		肉眼解剖学		医学英語				基礎系・臨床系 選択科目													
特定プログラム教育科目																					
								基礎系・臨床系 選択科目													
基礎系・臨床系選択科目																					
地域枠入学生特別プログラム																					
Phase Ⅰ		Phase Ⅱ-A		Phase Ⅱ-B		Phase Ⅲ		Phase Ⅳ		Phase Ⅴ											

Phase I Phase II-A Phase II-B Phase III Phase IV Phase V

医学科では教養教育、基礎医学、臨床医学の実施時期を明確に区別せず、Phase (フェイズ) I〜Vに分けて6年一貫教育を実施しています。教養教育科目および専門基礎科目は1年次から2年次後期まで行われます。専門科目では、基礎医学が1年次後期から始まり、遺伝子、発生、細胞、組織、器官、個体、集団といった順序で、かつ構造と機能を並行して勉強できるように構成されています。3・4年次には内科、外科、小児科などの臨床医学を統合し、臓器別に再構成したカリキュラムで学び、医師として患者さんの問題を解決する能力を養います。

Phase
I

大学入門科目I (医療入門I)、基本教養科目、インターフェース科目、情報リテラシー科目、外国語科目からなる教養教育科目と、基礎科学分野の教育や生命倫理学、行動科学原論などの専門基礎科目から構成されています。医師を志す者が学習すべき基礎的な知識と方法論を修得し、かつ人間に対する理解を幅広い視点から深めるために教育が行われます。講義に加えて実習も取り入れられ、例えば1年次から2年次まで開講される医療入門I、IIでは早期体験学習が行われています。

Phase
II

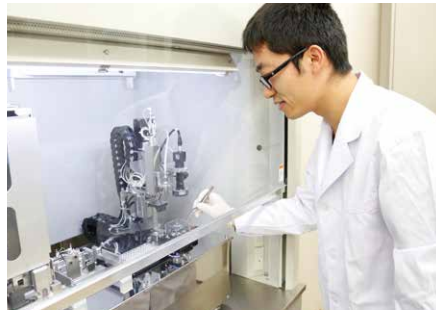
医学専門科目である基礎医学の学習が始まります。まず、生物の基本的構成単位である細胞の構造と機能を遺伝子レベルから分子レベルまで講義・実習を通して学びます。そこで得た知識を、細胞から組織、組織から個体へと構築することにより、人体の正常な構造と機能を個体発生、系統発生的背景と共に学習します。さらに、どのような内的・外的要因が係わり、どのような病態を呈するかを学び3年次 (Phase III) から本格的に始まる臨床医学へとつなげます。

Phase
III

PBL (問題基盤型学修) やCBL (症例基盤型学修) を大幅に導入していることが特徴です。これは、症例シナリオを用いたグループ討論を通して、学習課題を自ら見だし、学習する能力や、知識を活用して病気の診断や治療方針を立案する訓練を行うものです。同時に、医療面接や身体診察などの基本的臨床技能を訓練し、臨床実習に備えます。

Phase
IV & V

PhaseIVは全体的に臨床実習にあてられ、医療チームの一員として診療に参加するため、4年次に共用試験に合格し、Student Doctorとして適格認定を受けた者のみが実習を許可されます。PhaseVは「特定プログラム教育科目」「基礎系・臨床系選択科目」「地域枠入学生特別プログラム」から成っています。中でも6年次前期の「基礎系・臨床系選択科目」は、自らの弱点を補ったり、興味を持つ分野をさらに深める目的で、6年間の最後の仕上げとして位置付けられています。海外での短期臨床実習に参加するコースも含まれています。



授業紹介

医療入門



医療には、患者との良好なコミュニケーションを保ち、患者の心を理解しようと努める豊かな人間性と寛容な精神、職業人としての倫理性と責任感に基づき困難な決断を患者と共有する厳しさが求められます。医療入門は、臨床医学の修得前に、講義に加え早期体験学習、医療面接のロールプレイ、身体診察技法およびファーストエイド等の実習、地域の診療型・介護型医療機関での施設実習を行うことにより、医療人としての自覚を高め、少子高齢化を特徴とする現代日本社会における医療の実態を理解し、医療の技術的進歩と社会の急速な変貌が人々の心にもたらす問題に関心を持ち続ける態度を身に付けることを目標としています。

臨床実習



臨床実習では、これまで学習してきた基礎医学・臨床医学・社会医学・行動科学の知識や早期体験実習で得られた経験を統合し、病棟での実習を通じて将来医師として必要な考え方や技術などを身につけることができます。診療は、患者さんの病態や背景を理解し治療するために、医師だけではなく看護師・管理栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカーなどのメディカルスタッフとチーム医療で取り組んでいます。そのため病棟実習では全人的で総合的に患者さんを診ること、そして多職種連携の面白味、また患者の退院後の生活を考える想像性と創造性を学ぶことができます。

PBL



PBLとは、問題基盤型学習(Problem-based Learning)といわれるもので、従来の講義形式と違い、学生を1グループ7～8人程度の少人数に分け、提示された課題に対し、グループでのディスカッションを通じて、自らが問題点を見つけ解決法を探る、つまり自ら学習する方法の事です。各グループにはPBLチューターといわれる教員が付き、学習を進めるためのアドバイスをを行います。

研究室・講座紹介

分子生命科学講座

出原 賢治 特任教授、副島 英伸 教授
池田 義孝 教授、吉田 裕樹 教授

生命現象の基本的仕組みを明らかにし、その異常により引き起こされる疾患の病態解明を目指して「分子遺伝学・エピジェネティクス」「分子医化学」「免疫学」「細胞生物学」の4分野により教育・研究に取り組んでいます。

社会医学講座

市場 正良 教授、池田 知哉 教授
原 めぐみ 教授、松本 明子 教授

良好な健康状態を保持するための「環境医学」、癌や生活習慣病の危険因子・防御因子を明らかにして疾病予防に役立てる「予防医学」、DNAを用いた個人識別をテーマとする「法医学」の3分野で教育・研究を進めています。

小児科学講座

松尾 宗明 教授

最先端の医療技術をもって診療にあたるとともに医学生の前や卒後の教育を重視し、小児の総合診療医としての小児科専門医の育成と各専門分野でのサブスペシャリティの養成に力を入れています。

整形外科科学講座

膝関節外科、肩関節外科、脊椎外科、手外科など、幅広く診療を行っている中でも、特に股関節外科は全国屈指の手術症例数です。また、人工関節の開発などの基礎研究の成果も多く、学会でも注目されています。

産科婦人科学講座

全ての婦人科悪性腫瘍に対応できる県内唯一の施設である強みを生かし、診断・治療、フォローアップ、臨床研究、特に子宮頸癌に関してはHPVIに関連した発癌機構の解明と新規治療法の開発の研究を行っています。

放射線医学講座

佐賀県唯一の最先端放射線機器類を駆使して、画像診断、インターベンショナル・ラジオロジー、核医学、放射線治療の各分野で一致団結して日夜、教育・研究・診療に励んでいます。

臨床検査医学講座

さまざまな疾患の発生機序やその疾患の治療に対する反応性などを総合的に解明することにより、臨床業務に役立つ新規の臨床検査の構築と、そのための技術開発を目指し研究を行っています。

(附属施設)
地域医療科学教育研究センター

小田 康友 教授、川口 淳 教授

「数理解析部門(教育IR室)」 「福祉健康科学(社会生活行動支援)部門」「医学教育開発部門」の3部門で構成され、地域包括医療人材育成などの目標を持って活動しています。

生体構造機能学講座

倉岡 晃夫 教授、城戸 瑞穂 教授
安田 浩樹 教授、寺本 憲功 教授

生命体の構造(形態)とその働き(機能)の解明を目指して「組織・神経解剖学」「解剖学・人類学」「生理学」および「薬理学」の4分野に分かれ、それぞれの分野で教育・研究を進めています。

内科学講座

杉田 和成 教授、木村 晋也 教授、江崎 幹宏 教授
野出 孝一 教授、小池 春樹 教授

内科の専門8部門「膠原病・リウマチ内科学」「呼吸器内科学」「神経内科学」「血液内科学」「循環器・腎臓内科学」「消化器内科学・光学医療診療部」「肝臓・糖尿病・内分泌内科学」と「皮膚科学」の教育・研究を進めています。

一般・消化器外科学講座

能城 浩和 教授

「体に優しい」低侵襲の鏡視下手術を積極的に行い、全国でもトップクラスの手術率を誇っています。また、腫瘍制御に関する基礎研究もっており、腫瘍の悪性度診断、浸潤転移機構の解明などの研究を行っています。

脳神経外科学講座

阿部 竜也 教授

対象疾患は、脳腫瘍、脳血管障害、脊髄脊髄、小児脳神経疾患など広い範囲に及びます。特に詳細な外科解剖の研究に基づいた手術と新規治療開発に関する研究に立脚した悪性脳腫瘍の治療に精力を注いでいます。

眼科学講座

江内田 寛 教授

特に網膜剥離や糖尿病網膜症などの網膜硝子体疾患に力を入れ、加齢黄斑変性やお子さんの斜視・弱視など、長期にわたる疾患に対しても、地域の医療機関と連携し、患者さんの利便性を考慮した診療を行っています。

麻酔・蘇生学講座

坂口 嘉郎 教授

「手術室での麻酔」「集中治療」「ペインクリニック」「緩和ケア」の分野で診療と研究を行っています。手術など大きな侵襲に対する生体の反応を制御する侵襲医学の研究や、難治性の痛み治療を向上させる研究などに取り組んでいます。

救急医学講座

阪本 雄一郎 教授

初期診療体制の充実、救急集中治療体制の構築と共にドクターヘリ基地病院、佐賀広域消防との医師同乗救急車事業によって、九州で3ヶ所目となる、高度救急医療を行うセンターとしての役割を果たしています。

(附属施設)
先端医学研究推進支援センター

(併)吉田 裕樹 教授、(併)川口 淳 教授

学際分野を含む医学研究の先端的・中心的役割を担い、学内外への発信を行うと共に、医学部の教育研究の基盤となる高度な技術的支援とその研鑽を行うことで、医学・看護学の課題を重点的に研究することを目指しています。

病因病態科学講座

宮本 比呂志 教授、青木 茂久 教授
加藤 省一 教授

疾病の機序の解明を意図して、細菌や微生物感染に対する生体防御機序、動脈硬化症や癌の病理学、癌や肥満症などの生活習慣病の分子生物学の研究を「微生物学」「診断病理学」「臨床病態病理学」の3分野で進めています。

精神医学講座

溝口 義人 教授

“患者と共に在れ”をモットーとし、うつ病をはじめとするストレス関連疾患、老年精神疾患など変貌する精神科医療に対応すべく、リエゾンコンサルテーションなど他の診療科と協力しながら、さらに研鑽を重ねています。

胸部・心臓血管外科学講座

蒲原 啓司 教授

心臓血管外科と呼吸器外科から成り、患者さんの目線で最高の医療を実践し、地域医療に貢献し続けるために24時間体制で診療に励んでいます。我が国でも有数の心臓の再生医療に取り組んでおり、日夜研鑽を重ねています。

泌尿器科学講座

野口 満 教授

副腎、腎臓、尿管、膀胱、前立腺などの後腹膜臓器および泌尿生殖器の疾患を担当しています。常に患者のQuality of Lifeを尊重した医療をモットーとし、内視鏡・体腔鏡手術、ロボット手術など最新の医療技術を提供しています。

附属再生医学研究センター

中山 功一 教授

新しい再生医療技術の樹立を目指して「足場材料を使用しない3次元の複雑な組織形態を再現できるバイオ3Dプリンタ」を開発してきました。現在はこれを用い、血管や軟骨、肝臓、心臓の作製にもチャレンジしています。

耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座

杉山 庸一郎 教授

のど・鼻・口等の癌を最新の診療技術を用いてチーム医療で治療し、その治療成績向上を目指した研究を行っています。また、聞こえや発声などの機能障害や、嚥下障害、味覚障害などの改善を目指した診療や研究も行っています。

歯科口腔外科学講座

山下 佳雄 教授

口腔がん、口唇口蓋裂、顎変形症、顔面外傷など口腔外科疾患を専門に診療・研究・教育を行っております。特に顎骨再建へのインプラント義歯の応用や顎顔面補綴を積極的に行い、県民の「口腔健康管理」に努めています。

国際医療学講座

Globalizationや高齢化により大きく影響を受ける感染症の診断と治療を行います。一般感染症、免疫不全感染症などの臨床的疑問点を明らかにし、医療の質保全と向上に資する臨床研究を遂行できる人材を育成します。

研究室・講座紹介

社会医学講座(環境医学分野)

市場 正良 教授、原 めぐみ 教授
松本 明子 教授、西田 裕一郎 講師



社会医学講座は、医学の中では衛生学・公衆衛生学という領域を担当し、予防医学とも呼ばれます。その中で、我々の環境医学分野では、人を取り巻く環境の健康影響を考えています。例えば、空気中の化学物質を分析し、その健康影響を探るために血液や尿など生体試料中の化学物質やその代謝物の分析、あるいは代謝の仕組みや個人差について追究しています。特に様々な化学物質を取り扱う産業現場での作業環境や健康管理を考える産業医学は、重要な課題です。産業医という専門医資格もあります。これらの研究成果は、大学内での安全衛生管理や地域社会での実践活動に生かされています。

脳神経外科学講座

阿部 竜也 教授、増岡 淳 准教授、吉岡 史隆 講師、緒方 敦之 講師、伊藤 寛 助教、古川 隆 助教、並川 裕貴 助教



脳神経外科は、脳・脊髄に生じる疾患の予防、急性期治療、慢性期治療を網羅的に担う診療科であり、脳神経外科医は、外科医の目と技を持った神経総合医です。脳腫瘍、脳血管障害、脳血管内手術、頭部外傷、先天奇形、水頭症、てんかんなどの機能的疾患、脊椎・脊髄疾患など幅広い診療を行っています。従来の顕微鏡手術に加え、近年は血管内手術、内視鏡手術、定位的手術、細胞療法など多彩な手術や治療に取り組んでおり、女性医師の活躍も目立ってきています。臨床に繋がるような基礎研究にも積極的に取り組んでおり、世界水準の医療の実践と研究の推進ができる若手脳神経外科医の育成に励んでいます。



詳細情報はこちら

知識と技術を身につけ
現場での実習を繰り返し返して
妊婦と家族に寄り添える助産師に



1年次から早期実習が行われ、実際の看護の現場をより早く体感できること、4年間で助産師の国家試験受験資格を得られることから、佐賀大学の看護科を選びました。附属病院の存在や、助産学コースでは対面式の個別指導があることなど、専門的な知識や技術を深く学べる環境が整っているのも魅力です。3年次では臨地実習があり、患者さんを受け持ちながら疾病や治療過程を理解し、領域の特徴や個別性に応じた看護を深めていきました。また、看護と助産の学習に加えてチャリーディングの部活動も行っていたためタイムマネジメント力が向上し、グループワークが多いことで協調性も身につきました。将来は、妊娠期、分娩期、産褥期だけでなく、ライフスタイルに応じて女性や家族を支援できる助産師を目指しています。

看護学科
森 千尋 佐賀県 鳥栖高等学校出身

学びの特色
1

豊かな感性を持つ人になる

看護職者にふさわしい豊かな感性を備え、人を尊重する態度を身に付ける。

学びの特色
2

看護の知識と技術を持つ人になる

的確な看護実践ができるように、看護の知識と技術を修得する。

学びの特色
3

問題を解決に導く人になる

看護の多様な問題に対処できるように、自ら考え解決する習慣を身に付ける。

学びの特色
4

地域に貢献できる人になる

社会に対する幅広い視野を持ち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を養う。

主な進路

〈主な就職先〉

●佐賀大学医学部附属病院 ●肥前精神医療センター ●織田病院 ●久留米大学病院 ●聖マリア病院 ●福岡大学病院 ●福岡市民病院 ●熊本赤十字病院 ●大阪赤十字病院 ●京都大学医学部附属病院 ●北里大学病院 ●虎ノ門病院 ●国立成育医療研究センター ●国立国際医療研究センター病院 ●佐賀県庁(保健師) ●北九州市役所(保健師) ●浜の町病院(助産師) ●佐賀県(養護教諭) 等

カリキュラム一覧

1年次		2年次		3年次		4年次		
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
大学入門科目	ライフサイクルと看護				臨地実習 (成人) (老年) (小児) (母性) (精神) (在宅) (地域連携)	臨地実習(統合)		
情報リテラシー科目						ライフサイクルと看護		
外国語科目		臨地実習 (基礎)	基本教養科目または インターフェース科目			統合分野		
基本教養科目または インターフェース科目			看護の機能と方法					
看護の機能と方法				統合分野		統合分野		
臨地実習 (基礎)	専門基礎科目							
専門基礎科目				助産学コース		看護学コース		
				公衆衛生看護学コース		助産学コース		
				公衆衛生看護学コース		公衆衛生看護学コース		

教養教育科目

専門基礎科目

看護専門科目

教養教育科目

専門基礎科目

看護専門科目

授業紹介

老年看護学概論



高齢者の健康問題に関する基礎的な知識を踏まえ、生活史の聴取やシミュレーション学習などに取り組みながら、高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について理解を深めます。

臨地実習



病院での実習と、地域・在宅実習をひとつにしたもの。1年次の早期体験実習、2年次の基礎看護学実習、3年次の臨地実習、4年次の統合実習で構成されています。

成人看護学援助論Ⅱ



成人患者の特性をふまえ、代表的な慢性疾患を持つ患者および家族が抱える健康問題に対し、病気と折り合いをつけながら生活できるよう支援方法を学修します。

研究室・ゼミ紹介

基礎看護学



看護教育学、看護援助学(看護技術・コミュニケーション・看護過程論を含む)、看護管理と、看護の基本となる分野を幅広く担いながら、研究も進めています。

成人看護学



肺がん患者さんの手術後1日目の心身の状態をアセスメントして発表しています。術式や麻酔の種類、年齢などによって、起こりえる状況が異なってきます。

小児看護学



小児看護学領域では、様々な子どもと家族を理解し、発達過程で生じる健康問題の解決のため、個別性に応じた看護実践に繋がる教育・研究を行っています。得られた成果を地域の教育に活かしています。

母性看護・助産学



母親の育児負担を軽減するグッズや産後髄鞘炎の予防プログラムの開発、助産師の教育方法などの研究に取り組み、その成果は学会で発表するだけでなく教育や地域に還元しています。

卒業生の主な卒業論文テーマ

- ◎救命救急センターでの死別に関する遺族の体験と思い
- ◎術前外来に関する文献検討
- ◎救急看護学領域における代理意思決定支援を行う看護師の困難感
- ◎血液透析患者の災害に対する意識と備え
- ◎医療的ケア児のレスパイトに関する課題
- ◎集団でのがん教育の実態と効果
- ◎児童思春期病棟における家族支援の実態～家族の安心感を重視した看護～
- ◎在日高齢外国人の健康問題に関する現状と課題-QOLに着目して-
- ◎訪問看護師が非がん疾患患者に対して実践する緩和ケア
- ◎認知症高齢者の認知機能とADLの関連、ADL低下の過程と効果的なかわり
- ◎新人看護師の夜勤における陰性感情の実態
- ◎看護師と患者が認識するAYA世代がん患者の困難